

An aerial photograph of Fukushima City, Japan, showing a dense urban area with a mix of residential and commercial buildings. In the background, rolling hills and mountains are visible under a bright blue sky with scattered white clouds. A semi-transparent white rectangular box is centered over the middle of the image, containing the title text in green.

福島市のデジタル施策

令和6年4月23日
福島市政策調整部デジタル改革室

1. デジタル都市宣言

3つの戦略に基づき「デジタルで便利で豊かな新ステージ」を目指す
デジタル都市を宣言（R4.11）

- ①デジタルを活用した市民サービスの向上と行政の高度化・効率化
- ②デジタルを活用した市民生活を豊かにするまちづくりと産業振興
- ③市民共創で高齢者にもやさしいデジタル化



2. 市民総ぐるみのDX推進体制

①官民連携による地域全体の推進体制

◎ふくしまデジタル推進協議会（R4.7設立）

- ・デジタル企業等の専門的知見を取り入れながら、各界トップにより、デジタル化推進の全市的合意形成と方向性の共有を図るとともに各界トップのコミットメントを形成

○デジタル推進者会議（R4.7設立）

- ・協議会構成メンバーの実務的「デジタル推進者」で構成
- ・協議会の実行組織として、協議会のもと地域全体・各分野のデジタル化を推進（会員間での情報発信・共有等）

- 特定DXプロジェクトの分科会(医療・健康など)

市内各界の代表等で構成

行政

商工・
中小企業

農業

観光・交通

医療・福祉

教育・こども

地域・NPO

高齢者・
女性

情報

その他

②福島市(庁内)の推進体制

福島市DX推進本部

市長

CDO (Chief Digital Officer) - 最高デジタル責任者 -

副市長

副CDO (副Chief Digital Officer)

CDO補佐

(各部DX推進体制)

デジタル政策監

統括DX推進責任者

各部長

部DX推進責任者

≈

担当者

DX推進員

■インソーシングチーム

- ・主任DX推進員
- ・DX推進リーダー

3. デジタル都市に向けた戦略と推進施策

目指す姿

デジタルで 便利で豊かな 新ステージ

○市民共創で、高齢者にもやさしいデジタル化を推進し、市民生活と地域活動の全体にわたってデジタル化を浸透させていきます。

○人とデジタルの融合のもとで、市民生活をより便利で快適に向上させるとともに、産業振興など地域の活性化を図り、持続的に発展する都市を形成していきます。

3つの戦略

1
デジタルを活用した
市民サービスの向上
と行政の高度化・
効率化

2
デジタルを活用した
市民生活を豊かにする
まちづくりと産業振興

3
市民共創で高齢者にも
やさしいデジタル化

推進施策（14）

- (1) デジタルファーストのサービス向上
- (2) マイナンバーカードの普及促進と利活用
- (3) デジタル活用によるコミュニケーションの強化
- (4) 行政のデジタル化による高度化・効率化
- (5) 情報セキュリティの確保
- (6) 新たなコミュニティと共生社会の形成
- (7) 医療のデジタル化と健康づくり
- (8) 子育て支援・教育のデジタル化
- (9) デジタルを活用した賑わいの創出
- (10) デジタルを活用した農業や商業の振興
- (11) デジタル関連事業者の集積とこれを活かした産業活動の活性化
- (12) 市民総ぐるみのデジタル化
- (13) デジタル人材の育成・確保
- (14) 市民相互のサポート・学びあい

(1) デジタルファーストのサービス向上

①コンビニ交付サービス

- ・住民票等の各種証明書 ～窓口より100円安く取得可
- ・住民票・戸籍・印鑑証明等：全体の22.9%がコンビニ交付（R5.4～R6.3）
- ・税証明（所得、所得課税）：全体の20.4%がコンビニ交付（R5.4～R6.3）



②証明書オンライン交付申請（R5.10～）

- ・住民票や税証明等16種類の証明書をオンラインで申請・決済し、書類が自宅で受け取れる

(2) マイナンバーカードの普及促進と利活用

①マイナンバーカードの普及（R6.3末）

	保有率	交付率	申請率
福島市	74.2%	79.9%	83.7%
全国平均	73.5%	78.7%	79.9%

②ぴったりサービス

- ・これまで窓口に来庁して紙等で提出していた申請手続きが、マイナンバーカードを使ってスマートフォン等から申請することが可能
- ・196手続きが申請可能 ※全国トップクラス（R6.1末）

(3) デジタル活用によるコミュニケーションの強化

①市LINE公式アカウント（R2.11～）

- ・ 市政情報の受信、道路や公園等の不具合を写真付きで通報できるシステム、相談・講座・イベント等の予約システムなどの各種サービス
- ・ 登録者数：約3万8千人（R5.10末）→約7万5千人（R6.4）※市人口の約2.7%に相当
デジタルクーポンにより登録者数約2倍に増加



【県内初】

②テレビのデータ放送（dボタン）による市政情報発信の多重化（R5.4～）

③ショート動画の市政広報（若い世代向け）（R5.10～）

(4) 行政のデジタル化による高度化・効率化①

①本市初の自治体ビジネス

- ・ 民間企業との連携により議会答弁検討システム「答べんりんく」が商品化され全国発売（R5.4）※現在5団体導入済み、当面25団体程度見込み

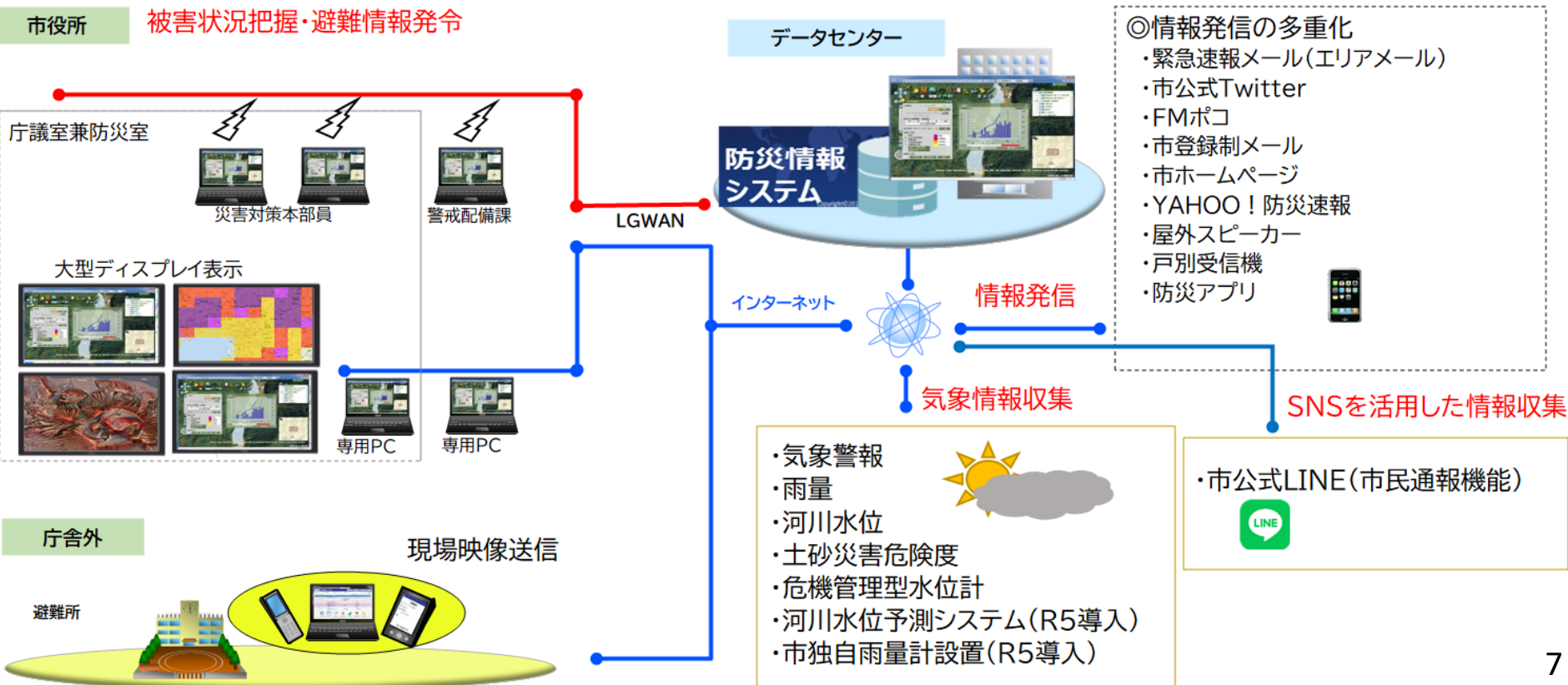
②業務システムの内製化

- ・ 専任職員をデジタル改革室に配置（R5.4～）
- ・ オンライン申請の拡充やRPAによる作業の自動化等、市販のシステムでは対応できない業務システムやRPAの内製化を強力に推進
- ・ H30～R4年度までに34件の内製システムが稼働
- ・ R5年度は46件の内製システムを稼働（年間3,901時間の削減効果）し、+35件を現在対応中

(4) 行政のデジタル化による高度化・効率化②

③災害対策のデジタル化

- ・ 災害情報等を一元的に管理・収集する災害対策オペレーションシステムを運用 (R3.5～)
- ・ 新たに設置する市独自雨量計や既存水位計等とデータ連携することで、突発的豪雨にも対応可能となる「河川水位予測システム」を導入 (R5.7)
- ・ 令和元年台風19号の対応を契機に、罹災証明の申請から発行までをシステム化 (R元.10)



(4) 行政のデジタル化による高度化・効率化③

④電子入札の実施（R5.7～）

- ・工事と工事関連業務委託の発注においてシステムを導入し、業者が来庁する時間コスト等を効率化
- ・入札参加者の利便性向上と事務の効率化を図るとともに、地域経済のデジタル化を促進する

⑤生成A I の活用による事務効率化（R5.6～）

- ・生成A I（ChatGPT）を活用し、要約作業や文書生成作業を効率化
- ・有効性が確認されたことから、生成A I（zevo：R6.1～）を全庁展開するとともに、A I時代に対応できる職員の育成を図る

⑥自治体情報システムの標準化・共通化（ガバメントクラウド）

- ・R5年度に庁内のDX推進ワーキンググループを立ち上げ、システム標準化対象の20業務について、標準仕様と現行の業務を比較するフィット＆ギャップの作業をBPRの視点を踏まえながら実施

(5) 情報セキュリティの確保

- ・市が扱う情報を安全に通信する仕組みを運用し、情報セキュリティ体制に万全を期す
- ・サイバー攻撃等への対応を行うCSIRT（Computer Security Incident Response Team）を設置（R4）

(6) 新たなコミュニティと共生社会の形成

① ICTを活用した町内活動支援

- ・電子町内会（R2～）
情報伝達の迅速化、役員の負担軽減を目的として実施
○参加町内会数

R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度
4 町会	2 5 町会	3 1 町会	4 0 町会

- ・電子町内会ウェブサイトの構築（R4.11）
市からの連絡や地域情報等をウェブサイトに掲載

ウェブサイトイメージ



② 高齢者の見守りの推進（H29～）

- ・認知症の方の身元確認ツールを活用し、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを支援

③ 公共施設予約システム（R3.12～）【キャッシュレス決済可能な予約システムは 東北初】

- ・スポーツ施設等 36 施設にキャッシュレス決済可能なシステムを導入
- ・オンライン予約利用率：44.9%（R6.3末）
- ・キャッシュレス決済利用率：43.1%（R6.3末）
- ・令和6年度からは広域連携し、国見町の3施設でも共同運用開始。

(7) 医療のデジタル化と健康づくり

① 12誘導心電図の運用 (R4.8～) 【県内導入1例目】

- ・救急車10台に12誘導心電図装置を配備。リアルタイムに心電図を病院と共有して救急患者の救命率向上

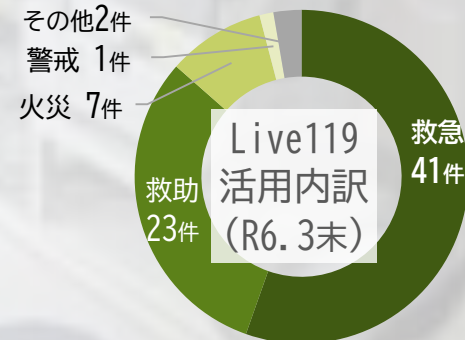
【実績】

- ・R6年3月までに663件の送信事例
- ・うち急性心筋梗塞と診断された76件。50代男性が4名
- ・緊急手術等の治療がただちに行われ、良好な経過となるなど高い効果



② 映像伝送システムLive119の活用 (R5.6～)

- ・119番通報者のスマートフォンを活用、現場の映像をリアルタイムで共有する映像伝送システム
- ・被害状況や傷病者の容態をより詳しく確認、消防車両到着前に適切な対応要請が可能になる等、視覚的な情報把握で救命率を向上
- ・活用実績：74件(R6.3末)



③ 休日小児科当番医のオンライン診療 (R5.10～)

- ・オンラインによる小児科の休日当番医を開設。受入体制を強化。
- ・スマートフォン等で申込や受診、処方された薬は市内薬局で当日受取可能
- ・小児科の新規開業支援、オンライン診療の活用を図りながら、市民へ適正受診の協力を依頼し、持続可能な小児科医療体制を確保していく
- ・実施日数：7日間
- ・受診件数：222件 (R6.3末)

(8) 子育て支援・教育のデジタル化

①保育所・幼稚園・小中学校における子ども見守りの推進

- ・保育業務支援システム（コドモン）で登園や保護者連絡を管理（R2）

②電子図書館の開設（R5.2）

- ・夏休み前に全小中生へ利用者IDを付与し読書の推進へ
※7月の利用状況は前月比で貸出数が5倍、閲覧数が3.7倍と大幅増加

③学校教育のデジタル化

- ・一人一台端末を活用し、教育の質の向上。デジタル教科書の前倒し活用、持ち帰り学習、臨時休業等でも学びを止めない工夫＝全校オンライン学習の日など（R3.4～）
- ・学校図書館のネットワーク化 ～学校間や市立図書館との横断検索や図書の貸し借りの連携を可能とするネットワークシステムを整備中

(9) デジタルを活用した賑わいの創出

①デジタルスタンプラリーの開催

②デジタルエンターテイメントの導入（R6.3）

- ・こむこむ館にプロジェクションマッピングを活用したデジタルコンテンツを導入、遊びながら学べる場を提供

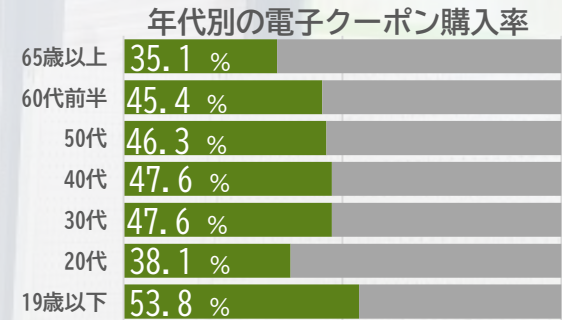
③ももりんシェアサイクルの運営（R4.7～）

- ・自転車の増台やサイクルポートの増設等サービスを拡充

(10) デジタルを活用した農業や商業の振興

①福島市デジタルくーぽん事業 (R5.11) 【本市初の電子クーポン】

- ・高齢者等スマホの操作に不慣れな方の購入等は、スーパーや学習センター等17か所でサポーターにより手厚く支援
- ・購入率：43.4%



②福島市選択型エールクーポン (R6.3)

- ・購入不要な値引き型の紙クーポンまたはデジタルクーポンのいずれかを選択して利用
- ・デジタル選択率：25.5% ※R6.3末

③スマート農業の推進

- ・スマート農業実演会を開催 (R5.10)
- ・農薬散布ドローンや自動草刈りロボットを実動し、ICTの先端技術を活用した機器の利便性を発信

④デジタルマッチングによる農作業補助者の確保

- ・農業1日バイトアプリ「デイワーク」を活用し、市役所における部分兼業制度「カジュワーク職員制度」を創設 (R4.7)
- ・これを機に、農業全般における「デイワーク」による農作業補助者確保を促進
- ・農業者の活用停滞
→シルバー人材センターICT班による登録出張サポートを実施 (R5.12～R6.1)

(11) デジタル関連事業者の集積とこれを活かした産業活動の活性化

①街なかでのクリエイティブ産業の集積

- ・クリエイティブ事業者の街なかでの事業所開設を支援し、集積促進（家賃補助、リノベーション支援）
- ・R6年度からは、新規出店誘導区域における新規出店・事業所開設のための準支援としてデジタル環境整備も補助対象

②クリエイティブビジネスサロンの開設運営（R4.4～）

- ・リモートワーク環境を備えたシェアオフィス、コワーキングスペース等

③デジタル専門学校開校

- ・市、テレビユー福島、デジタルハリウッドが、デジタルを活用したひと・まちづくり協定を締結（R5.5）

(12) 市民総ぐるみのデジタル化

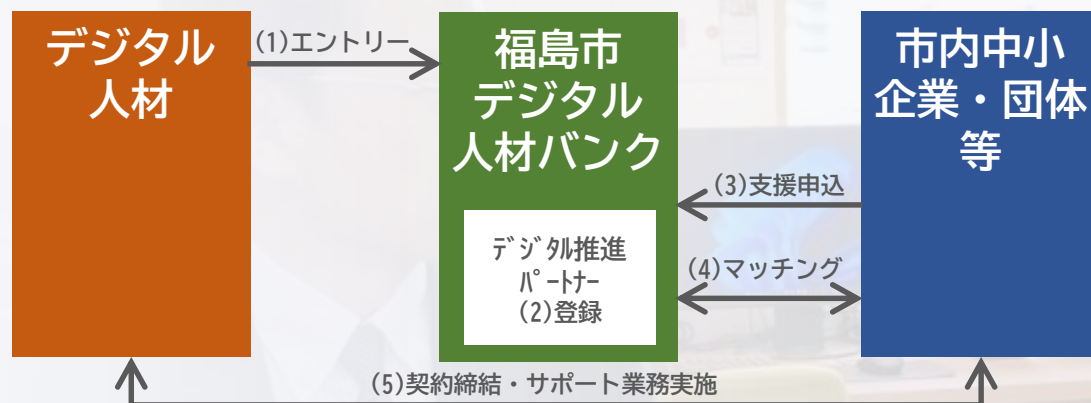
①ふくしまデジタル推進協議会（R4.7設立）[再掲]

②デジタル化推進フォーラム等の開催（R5.11）～市民、中小企業等の啓発

(13) デジタル人材の育成・確保

①福島市デジタル人材バンク（R4.12～）

- ・福島市内で活躍したい思いを持つデジタル人材と、デジタル人材の支援を受けて解決したい課題を持つ市内中小企業や団体等をマッチング



- ・登録者数：55名（R6.3末）
- ・マッチング成立件数：8件（R6.3末）

②行政における人材育成・確保

- ・CDO（最高デジタル責任者）補佐の登用
- ・民間からの人材登用（地域活性化起業人制度活用）
- ・職員の育成（デジタル研修、DX推進員の育成）

■得意分野ごとのデジタル人材登録人数（重複カウントされる人材を含む）

デジタル人材の得意分野	個人	法人
WEBサイト構築	5	4
WEBデザイン	7	2
WEBライター	4	1
動画制作	4	1
デジタルイラスト制作	1	0
コンサル・ITコーディネータ	7	5
宿泊業向けデジタル化支援	1	1
デジタルマーケティング	4	3
デジタルデバイス活用	4	1
製造系システムの支援	1	0
会計システムの支援	1	0
ARアプリ開発	1	0
デジタル人材（DX人材）育成	3	3
その他（分野特化、汎用的）	6	3

■デジタル人材バンクのマッチング内容

内容	件数
ホームページリニューアル	2件
Web記事執筆	2件
チラシデザイン	2件
人材紹介（講師、モニター）	2件

(14) 市民相互のサポート・学びあい

①高齢者スマートフォン利活用支援講座

- ・全学習センターで高齢者向けスマホ講座を開催
- ・実施回数：279回、延べ参加者数：1,802人(R6.3)

②デジタルクラブ

- ・高齢者同士が学習センター等で自主的に学び合うクラブの設立を支援（4クラブが設立（R6.3））

③子どもたちとのデジタル交流

- ・子どもたちと高齢者のデジタル交流と学び
- ・子どもたちがスマホ操作の先生になることも

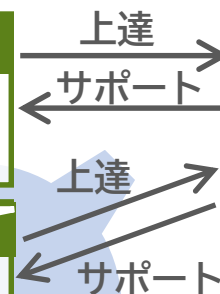
④デジタルサポートデスク

- ・誰でも気軽にデジタルの相談が可能（毎週月・水・金）
 - ・予約はほぼ満杯（延べ相談件数：693件）
- R6から開設場所を**拡充**（2か所→**8か所**）



⑤高齢者向けスマホハンドブック

- ・サポートデスクの経験を活かし作成
- ・高齢者に伝わりやすい言葉で説明
- ・見やすく、読みやすい工夫



【育成】シニアICTサポーター

- ・アドバイスできる高齢者を登録し、デジタル活用に不慣れな高齢者が困ったときに、地域で支援し合う
- ・登録者数：63名（R6.3）

登録

【連携】シルバー人材センターICT班

- ・デジタルサポートデスクの水曜日の相談を担当
- ・登録者数：20名（R6.3）

相談員
派遣

相談員派遣

⑥農業アプリの利用支援

- ・デジタル活用に不慣れな農業者の登録作業をサポート
- ・市内4会場にて実施

作成
担当

発展

老人クラブでのスマホ教室へ展開
（ICT班が担当）

高齢者世代のデジタル活用が活発に！

（市公式LINEアカウント登録者増加率(R5.10.31～R6.4.8) 全年代：1.9倍 60代以上：2.8倍）